

オーディオ、刃物、眼鏡、車いす、人工心臓……。幅広い製品を手掛け、国際的に知られる工業デザイナー、川崎和男さんは「デザインには問題を解決する力がある」と話す。

## デザインに問題解決の力あり

金沢美術工芸大学で学んでいたころ、(同大学教授で工業デザイナーの)柳宗理先生は「発明はあるのか」とよく聞かれた。デザインとは単なる装飾ではなく、問題を解決することが求められるとの考えです。大学卒業後、東芝でオーディオのデザインをするようになったときから、自分の手がけるものに「発明」があるかを常に自問してきた。1979年にフリーになってから、刃物のデザインを手がけたときも「発明」を心がけた。出身地の福井は越前打刃物の産地で、700年の伝統を誇る。しかし、当時は切れ味は劣るが、さびにくいステンレス製の文化包丁に押されてきた。そこで考えたのが火造り鍛造した鋼をステンレスで挟んだ刃物。グリップの部分にもステンレスを使い、

## 作品に「発明」追い求める



工業デザイナー

川崎 和男さん

(かわさき・かずお)工業デザイナー、名古屋国立大学名誉教授、大阪大学名誉教授。1949年福井市生まれ。金沢美術工芸大学卒。毎日デザイン賞など受賞。著書に「倉俣史朗のデザイン」など。

一体化したデザインにした。タケフナイフビレッジ協同組合(福井県越前市)の職人が持つ伝統の技に、インターストリアルデザインの手法を導入することでもうひとつのキースといえる。地元との結びつきという点では、(海外の著名人が愛用していることで話題になった)「Kazuo Kawasaki」ブランドの眼鏡も、福井市の増永眼鏡の依頼でデザインしたものだ。

■「問題解決のためのデザイン」という考え方には、78年に交通事故に遭い、車いす生活となった経験も影響している。

車いす姿の私を見て、ある母親が子供に向かってこんな風に言ったんです。「悪いことばかりしていると、あんな風になっちゃうわよ」。ショックだった。そうか、車いすはカッコ悪いのか。だったら機能だけでなく、デザイン的にも優れた車いすを作ろうと思った。試行錯誤の末に生まれたのが(ニューヨーク近代美術館のコレクションにもなっている)車いす「CARNA(Aカーナ)」です。デザインに関しては相手が

■ほかにも医学博士号を取得するきっかけとなった人工心臓などをデザインしてきた。その仕事を紹介する本「川崎和男 Design」(ミネルヴァ書房)が刊行された。

大阪大学の退官記念で企画されたもので、20年以上つきあいのある(編集工学研究所所長の)松岡正剛らが文章を寄せてくれたのがうれしい。当初、編集は周りの人間に任せていたが、我慢しきれずに手を出してしまった。表紙に人工心臓のホログラム(立体画像)を入れるなど工夫を凝らしている。

もっとも、私のデザインの仕事が終わるわけではない。今は福井県織物工業組合(福井市)とも産地の将来を考える会を定期的に開いており、9月には新しい織物ブランドの発表会がある。半分ぐらいの厚さになると思うが、もう一冊「作品集」は出したい。(聞き手は編集委員 中野悠)

## 夕刊文化